

# 関係フレーム理論に基づくケースフォーミュレーションとその効果について

○ 刈田 文記 (株式会社スタートライン CBS ヒューマンサポート研究所 主幹主任研究員)

## 1 はじめに

株式会社スタートラインでは、事務作業を中心としたサテライトオフィスや屋内農園型サテライトファーム「IBUKI」の運営を通して、日々1,000人を超える様々な障害を持つ人達への職場定着サポートを行っている。私たちは、個々のケースの職業生活を的確に支えるため、必要に応じて詳細なケースフォーミュレーション(以下「CF」という。)を行いながら、計画的な職場定着サポートに取り組んでいる。

このような職業リハビリテーションの分野におけるヒューマンサポートを実施するには、個々のケースの障害状況だけでなく、職場環境や生活環境、職業上必要な各種スキルの習得状況、出退勤率等の職場定着状況、対人面でのコミュニケーション能力等、様々な情報を収集・整理・分析し、適切なサポート計画を立てるCFが必要である。また、ケースの心理的問題を取り扱う場合には、対象者を取り巻く環境や現状のスキルに加えて、今問題となっている事象についての機能分析や今と関連のある他の場面や過去の事象についても検討する必要がある。

本発表では、ケースの複雑な心理的問題を取り扱う際の新たなCF技法として、関係フレーム理論に基づくHDMLフレームワークについて概観するとともに、その有効性についても検討する。

## 2 HDMLフレームワーク

HDML(Hyper Dimensional Multi Level)フレームワークは、関係フレーム理論に基づき、ヒトの行動への関係フレーム/ネットワークの影響について検討することを目的として、Barnes・Holmes,Yらによって体系化され、2019年にアイルランドのダブリンで行われた第17回ACBS(Association for Contextual Behavioral Science)世界大

会のプレカンファレンス・ワークショップの一つとして開催された「Advances in RFT: Implications for Clinical Behavior Analysis」で提唱された技法である。

HDMLフレームワークでは、ケースの抱えている心理的問題に対し、レベル分析・ディメンジョン分析・ROE分析からなる検討・分析を推奨している。

### (1) 関係フレーム/ネットワークのレベル分析

HDMLフレームワークでは、次の様な関係反応の5つのレベルを規定している。

相互的内包(Mutually Entailing)は言語関係の双方向性を、関係フレームづけ(Relational Framing)は一つの関係フレームファミリーからなる少なくとも2つの相互的内包の組み合わせを、関係ネットワークづけ(relational networking)は複数の関係フレームファミリーからなる複数の関係フレームの組み合わせを、さらに関係性の関係づけ(relating relations)ではある関係フレームが異なる時間や場面で作られた関係フレームに関係づけられていることを、関係ネットワークの関係づけ(relating relational networks)ではある関係ネットワークが異なる時間や場面で作られた関係ネットワークに関係づけられていることを意味している(図1)。

### (2) 派生的関係反応のディメンジョン分析

またHDMLフレームワークは、これら5つのレベルのそれぞれについて、一貫性(Coherence)、複雑性(Complexity)、派生性(Derivation)、および柔軟性(flexibility)という4つの側面を概念化している。

一貫性は現在の関係反応が以前の関係反応のパターンと一致している程度を、複雑性は特定の関係フレーム/ネットワーク内の関係の数または種類を含めた関係反応の詳細や密度の程度を、派生性はある関係フレーム/ネットワークによって派生した反応が最初に自発された回数の多寡の程度

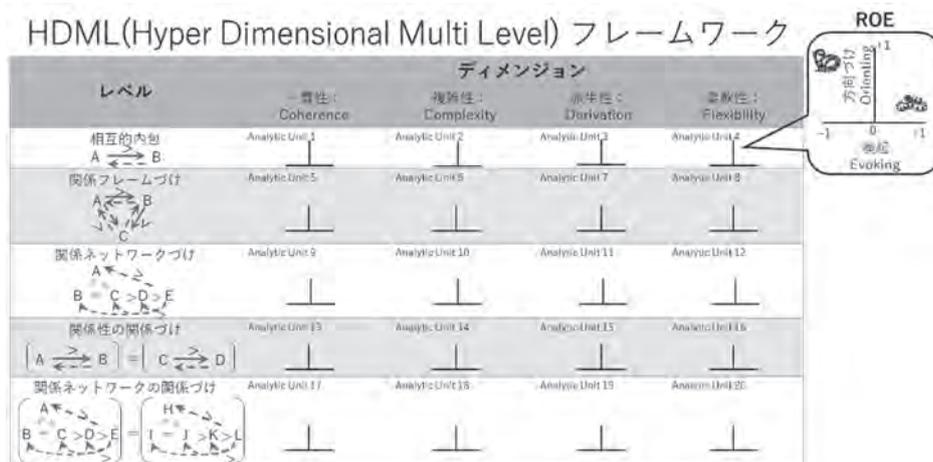


図1 HDMLフレームワーク概念図

を、柔軟性は派生された関係反応のパターンが文脈によって影響を受けたり変化したりする程度を意味している。

### (3) 心理的出来事の ROE 分析

Barnes-Holmes らは、ヒトの心理的出来事を、関係づけ (relating :R)、方向づけ (orienting :O)、および喚起 (evoking :E) という連続した行動の流れを含むものとして概念化した。関係づけは、ヒトが言葉と刺激と出来事を関連づけられる様々な複雑な方法を意味している。方向づけとは、刺激や出来事に気づいたりそれに接したりすることを指す。そして喚起とは、気づいた刺激や出来事が望ましいものか嫌悪的なものなのかに応じて振る舞うことを意味している。ROE の3つの要素は、完全に分離可能な分析単位ではなく言葉の力のある人間のあらゆる心理的出来事として一緒に機能している。例えば、森に入るときに「赤と黄色の縞模様のヘビには猛毒があるが、白と黒の縞模様のヘビは大人しくて人なつこい」と言われたとする。するとそれを聞いた人は、“赤と黄色の縞模様”に関係づけられ、その色柄に対して方向づけられ、常に注意を向けやすくなる。さらに、実際にその色柄に気づいた際に回避などの喚起反応を行う可能性が高まる (図2)。

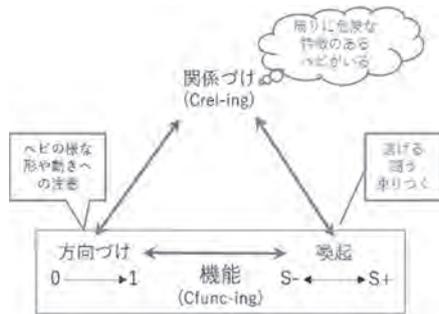


図2 ROE の考え方

このような3つの分析方法を組み合わせることで、複雑で直接観察による分析が困難な派生的関係反応による、現在の行動への影響を分析・検討することが可能となる。

### 3 HDML フレームワークに基づく CF の効果

私たちは、弊社サポートスタッフ全員に HDML フレームワークに基づく CF の実践方法について研修を実施している。

私たちの研修では、HDML フレームワークの基本的な考え方に加えて、具体的なモデル事例を通した考え方を整理すると共に、仮想事例による演習を行い実際の CF への応用力を養っている。また、学習した技法を自分自身に適用する“自分 CF”を行い、自己の行動傾向の分析を行うことで、支援者としての資質の向上を図っている (図3)。

さらに、定期/不定期に行っているケース会議での CF に際し、この観点を取り入れた検討を行っている。その結果、次のような効果が現れている。

### 4. あなたの行動や思考は、どんな複層的な関係フレーム/ネットワークの影響をどのくらいどんなふうに受けていますか？



図3 自分 CF で用いる HDML フレームワークの分析様式

- ① ベル分析によりケースの抱える心理的問題の複雑さに応じたサポートプランの立案が可能となった。
- ② ディメンジョン分析により行動変容を促すサポートの選択を合理的に行えるようになった。
- ③ ROE 分析によりケースの衝動的行動についての予測性が高まり、生じうる問題への事前の備えが可能となった。

### 4 今後の展望

職業リハビリテーションの分野に限らず的確な CF を実践するには、ケースが抱えている問題に応じた様々な視点からの分析・検討を行えるよう、支援者としての数多くの経験が必要であると考えられることが多い。一方で、支援者の経験の蓄積は、試行錯誤的なサポートによる失敗経験の積み重ねとなることも多く、結果として、不安や成果の不透明さに対する体験の回避として積極的なサポートの実行を避けることも多いのではないだろうか。

的確な CF の実践のためには、本研究で示したものも含め、様々な視点に立った CF の実施方法について学び、実行し、成功体験を積み上げていくことが必要であろう。

文脈的行動科学の分野では、現在も実践的研究によって多くの新たなサポート技術が開発されている。当研究所では、新たな技術についてのアンテナを張り続けるとともに、既存のサポート技術についても、組織的かつ効果的に提供できるよう演習・研修の機会や実践結果の情報共有の機会を創り出し、さらなる実践家の育成に取り組んでいきたい。

#### 【参考文献】

- Yvonne Barnes-Holmes, Ph.D. Ciara McEnteggart, Ph.D. Dermot Barnes Holmes, Ph.D. (2020). Recent Conceptual and Empirical Advances in RFT: Implications for Developing Process-Based Assessments and Interventions. *Innovations in Acceptance & Commitment herapy*. 4. 41-52. Oakland, CA: New Harbinger, Context Press.
- Yvonne Barnes-Holmes, Ph.D. Ciara McEnteggart, Ph.D. Dermot Barnes Holmes, Ph.D. Colin Harte, M.Sc. (2019). Advances in RFT: Implications for Clinical Behavior Analysis. Pre-Conference Workshops for WC17 ACBS. 25-26 June, DCU Helix, Dublin City University Dublin, Ireland 2-Day Workshop: